

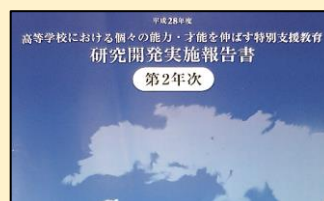
## 通級による指導の成果と課題～3年間の取組を振り返って

北海道本別高等学校教諭 平 口 莉 菜

### ○ 北海道本別高等学校の紹介

本校は全校生徒 100 名の小規模校です。生徒の約7割が本別町出身であることから、地域と連携した取組を様々な教育活動の中で進めています。多くの生徒は落ち着いて学校生活を過ごしているものの、発達障がい等の特性により人間関係や学習等で悩みを持つ生徒もいる現状があります。

そこで、本校では平成 27 年度より文部科学省指定事業「高等学校における個々の能力・才能を伸ばす特別支援教育」の指定を受け、高等学校における通級による指導の実践、授業のユニバーサルデザイン化、個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成・評価の工夫など様々な取組を行ってきました。



### ○ 取組を進めていく上で、苦労したこと

- ・「高等学校における通級による指導」が前例のないものであったため、どのように取組を進めていくべきか悩むことが多くありました。
- ・「高等学校における通級による指導」の具体像を、他の高等学校や中学校の先生方に正しく理解してもらうことが難しかったです。

多くの苦労がありました。実践を積み重ねていく中で、本校の取組を中学校や高等学校にお伝えする機会を多くいただきました。話をしていく中で、通級による指導について「初めて知った」「勘違いしていた」などの感想が多く聞かれ、校内における取組の充実のもと、校外へ発信し、その理念を普及させることの重要性を認識しました。



### ○ 取組を通じて、うれしかったこと

通級による指導の取組を行うには、教職員だけでなく、困難さを抱える生徒の周辺にいる生徒全体の理解が不可欠でした。

そのため、通級による指導について、理念や目的を全校生徒に説明するとともに、「共生社会」についての講演会を実施するなどの取組を積極的に行いました。

その結果、本別高校の生徒たちは「通級による指導」についてよく理解し、必要な学習として認識してくれました。指導を受けている生徒が安心して学習することができるようになり、さらには、本別高校の生徒全体が「共生社会」について理解を深め、困っている生徒に手を差し伸べたり、コミュニケーションを取ったりするなどの変化が見られるようになったことは大きな成果と感じています。



### ○ 今後の取組について

- ① 平成27年度から4年間の実践で培った知識や経験をいかし、「通級による指導」のみならず、「困難さを抱える生徒に対する指導及び支援の充実」に今後も取り組んでいきたい。
- ② 「通級による指導」については、校内での取組にとどめず、全道の高等学校に普及させる役割があることを認識し、積極的に発信していきたい。
- ③ 中学校や特別支援学校に「高等学校における通級による指導」について正しい認識をしてもらえよう、より一層連携を深めていきたい。